



入港する船を岸壁に繋ぎ、離す

清水ポートサービス(株) 代表取締役社長
水見文雄さん

清水港は、年間約2千隻の外航船および約7千隻の内航船が入港し、多くの定期航路が開設されています。

当社は、清水港が特定重要港湾に指定されたことを契機に、1958年に設立。入港する船舶へのサービス業務として、綱取り放し作業、通船作業、給水作業、産業廃棄物収集運搬、船用品取扱作業を、安全確実にを行い、船舶が万全の状態での航海へ旅立つ一翼を担っています。

船のロープを岸壁に取り付け、取り外す

綱取り放し作業は、船を岸壁に着ける時や離す時に、船のロープを岸壁のビット(係留柱)に取り付けたり、取り外したりする作業です。

清水港は、富士見埠頭から新興津埠頭まで、それぞれの埠頭にビットが付いています。船会社が清水港に入港する船の大きさを清水港の船舶代理店に連絡すると、船舶代理店は着岸する埠頭を決め、着岸する時間を当社に伝えてきます。当社の社員は、船が着岸する埠頭にクルマで向かい、船を待ちます。

大きな船の場合、水先人がタグボートで船を岸壁に押し付けるので、接岸と同時に船から岸壁に投げおろされる重りの付いた細いロープを受け取って、四輪駆動車の前面に設置したフックに掛けて引き、太いロープを手練り寄せ、先端の輪を手作業で岸壁のビットに掛けます。

船首、船中、船尾と少なくとも3箇所からのロープをビットに取り付けますので、2台〜3台のクルマで同時に作業を進めますが、作業時間は30分〜1時間を要します。

荷役が終わる時刻になると、当社の社員が再び埠頭に向かい、ビットから船のロープを取り外します。

岸壁取放料金は、船の総トン数によつて決めていて、代理店から支払われます。総トン数5万トン未満の船では82900円が基本料金。

綱取りボートで船のロープを受け取る

1万トン級の小さな船の場合は、タグボートを使わずに自力で接岸するため、綱取りボートを使って海上でロープを受け取りボートのビットにつなぎ、岸

壁へもつてくる作業が必要になります。綱取りボートの手配は、代理店から連絡が入ります。その出動回数は、月約80回。

綱取りボートは、沖合に停泊する船に荷物を届けたり、船員さんが船と陸上を往復するための通船(海上タクシー)の役割も担っています。

綱取りボート料金は、8時〜17時は12000円ですが、早朝や深夜は料金が高くなります。

綱取り放し作業に関連して、岸壁から船へ飲料水等を1.5m³10円で給水しており、年間5万トンを販売。

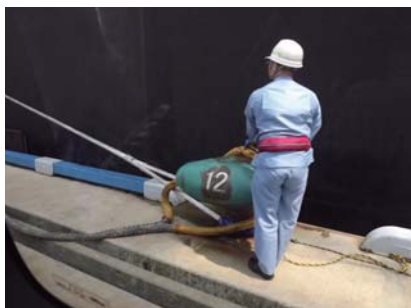
船用品を運搬するトラックを使って、木製パレットを収集し、清水埠頭(株)のリサイクル工場に運搬する事業を2010年から始めました。

24時間体制で、作業を安全確実に

清水港は、横浜港と名古屋港の間という立地を活かして船の寄港を促していますので、深夜でも荷役できる態勢を組んでいます。

当社も24時間体制です。当社の現場スタッフは21名で、7名で1班を編成。2班が出社し、1班が休む勤務体制です。7名のうち2名は泊りがけで当社に待機します。

細かい作業マニュアルを作成しています。月1回「安全衛生会議」を開催して、その月の事故や注意事項を報告して対策を考え、必要に応じて作業マニュアルに記載して周知徹底を図るなど、社員が安全確実に作業を行える態勢を整えています。



新興津埠頭での綱取り作業



日の出埠頭で待機する綱取りボート



使用済みパレットを回収して運搬



本社事務所の綱取り放し作業手配ディスプレイ